

明石市生涯学習センター及びあかし男女共同参画センターの 管理運営状況報告(2023年度)

施設所管課	市民生活局市民協働推進室 コミュニティ・生涯学習課
-------	------------------------------

1 指定管理者

- (1) 指定管理者 一般財団法人明石コミュニティ創造協会
 (2) 指定期間 2023年4月1日～2028年3月31日
 (3) 管理体制 財団職員32名(正規職員12名、パート職員20名、他業務との兼務職員10名含む)

2 評価項目

(1) 利用者アンケート

①ウィズあかし利用者アンケート調査結果

(実施期間：2023年12月1日～2024年1月31日 回答数：999件)

質問項目	2023年度						2022年度					
	ほぼ毎日	週1.2回	月1.2回	半年1.2回	初めて	無回答等	ほぼ毎日	週1.2回	月1.2回	半年1.2回	初めて	無回答等
利用頻度	1.6%	26.5%	46.4%	12.4%	5.7%	7.4%	1.8%	16.8%	51.0%	17.7%	7.7%	5.0%
質問項目	0～30代	40～50代	60代	70代	80代以上	無回答	0～30代	40～50代	60代	70代	80代以上	無回答
年齢	14.6%	21.4%	19.8%	32.1%	10.7%	1.4%	12.4%	32.7%	24.5%	21.2%	8.3%	0.9%

②利用者からの主な要望とその対応等

- ・トイレ内のエアタオルが使用できないとの要望に対し、新型コロナが5類感染症に引き下げられたことに伴い、6月3日よりハンドドライヤーを使用できるようにした。
- ・音楽練習室2の備品であるドラムセットが古く、通常使用が難しいとの声に対して、ドラムペダルの経年劣化が判明したので、ドラムペダルを交換修理した。

(2) 事業達成度

①事業・業務の実施状況

運営業務	<開館日数：310日 総入場者数：291,752人> ・引き続き館内5か所に意見や要望を記入できるように机を常設し、利用者が意見や要望を発信しやすい場を設けた。 ・貸室利用料の支払いに際して、来館せず支払いができるキャッシュレス決済(ekai in)の導入と窓口での支払い時に現金以外でも取り扱えるようにAirペイと連動した自動釣銭機を導入した。 ・情報発信としてイベント情報誌(Ru,Ru,Ru)12回発行、SNS(X、Facebook、Instagram)、YouTube、ホームページを活用した。 ・情報ブースの拡充として、明石市の情報に特化したエリア「あかしウエルカムプレイス」を設置した。
維持管理業務	・職員による毎朝清掃作業の実施や清掃スタッフを定期的に巡回させ、施設利用直後に

	清掃を行った。 ・適切な保守・点検を定期的実施し、円滑な施設の管理運営を実施した。 ・施設老朽化の状況を把握し、設備に不具合があれば修繕を行うなど適切に対応した。 なお、利用者持参の新しい機器とコントロール卓の接続不良が頻発したことから、更新工事を行なった。また、更新に合わせてマニュアルを作成し、設置した。	
実施事業	・合計22事業を実施。主なものは以下のとおり（一部延べ人数）。 (1)生涯学習事業の推進	
	シビックプライドを醸成するための「あかしウエルカムプレイス」の設置	「助成金」をテーマにした特設ラック設置など11企画実施
	新たな活動につなげるコーディネート	講師カタログを紙媒体からWeb版にリニューアル
	つながる本棚hito-hacoの運営及びブックスポットへの支援	・Kintoneを用いた貸出システム構築 ・オーナーと読者をつなぐ「ヒトコトメッセージ」の実施 ・オーナー交流会 参加者：5名
	まちの魅力と出会うための地域学講座の実施	あかし楽4講座実施 参加者：70名
	まちをより深めるための「マイあかし学学会」の企画・準備	
	子育て・ユース世代支援強化による全世代への学習機会の検討	2企画実施 参加者：25名
	あかし学実行委員会	4回開催
	(2)生涯学習活動・地域で活躍する人材の発掘及び育成支援	
	「みんなの学校」等を通じた人材発掘と市民講師の育成	チャレンジ屋台、「みんなの学校」など6企画実施 参加者：129名（オンライン含む）
	ウィズあかし登録メンバーズ制度を通じた人材発掘と育成	・登録団数：207 ・フリースペースでのイベント：208件 ・登録メンバーズの交流・意見交換会「ウィズゆう」実施など

(3) 市民活動の支援及び地域、行政との協働の推進	
ステップアップのための講座や交流会の開催	9 企画実施、 参加者：299 名（オンライン参加者含む）
地縁型市民活動団体と分野別市民活動団体の交流機会として「エリア別コラボミーツ」の開催などの検討	
(4) 男女共同参画・女性の活躍推進	
男女共同参画に関する先駆的なテーマの普及啓発	パパの家事育児応援イベント「パパ応援 DAY」など 8 企画実施 参加者：799 名
当事者・家族等に対するエンパワメント	「HSP の良さを活かす考え方とコミュニケーション」など 9 企画実施 参加者：207 名
多様なチャレンジを応援するキャリアデザイン・ライフデザイン支援の実施	「起業のための SNS 活用講座」、就業サロンなど 3 企画実施 参加者：56 名
自助グループの立ち上げ、運営支援に向けた準備	HSP 講座受講者の語り合いの会のサポートを 6 回実施 参加者：21 名
(5) 関係機関・団体、ネットワーク組織と連携した事業等の推進	
エンパワメントの幅を広げるための他機関連携推進	県内男女共同参画センター等連絡会議など 4 企画実施
他機関・ネットワーク団体等との連携事業の実施	あかし若者サポートステーション／ボランティア活動の場提供など 3 企画実施 参加者：84 名
(6) 生涯学習、市民活動、男女共同参画が連動した事業	
複合型大型イベントの実施	「ウィズフェス 2023」 参加者：984 名
誰もが参加できる多様なコミュニティサロンの開設	「Like café つむぎ」等、オープンなサロン 5 企画実施、参加者：299 名 「ミモザの会」（クローズドなサロン）1 企画実施 参加者 14 名
9 階稼働率向上へ向けた取り組み	「ひとつぶのたねクラシックコンサート」 2 回開催
(7) 各種相談	
生涯学習・市民活動に関する相談・コーディネートを行う	相談：274 件、コーディネート：57 件
性別に関わらず様々な悩みや就労についての相談を行う	・ 女性のための相談 電話：344 件、面接：229 件 ・ 女性のための法律相談 41 件 ・ 就業相談 面接：333 件 ・ 夜の就業相談 面接：1 件 ・ 履歴書・職務経歴書の作成相談：78 件

	・カードで発見！適職のヒント 相談：５７件 ・出張就労相談：２６件 ・女性のためのチャレンジ相談（県共催） 面接：１６件 ・男性のための電話相談：２２件
--	---

②施設等の利用状況

実施状況（実績）	２０２３年度	２０２２年度	２０２１年度
利用者数（有料施設）	１７１，３００人	１５１，１４６人	１０７，１８０人
利用回数	８，２１２回	８，０３３回	６，７３３回
稼働率	６６．５％	６５．４％	５４．７％

（参考）２０２３年度 各貸室の利用状況

	稼働率（％）	利用件数（件）	利用人数（人）
学習室 701	70.4	841	15,024
学習室 702	79.6	560	8,420
学習室 703	74.4	612	9,582
小計	73.7 (2019 73.4)	2,013	33,026
学習室 704	73.4	721	30,871
学習室 801	79.8	815	23,020
学習室 802	74.2	608	8,973
学習室 803	67.6	546	10,992
学習室 804	77.9	612	4,308
学習室 805	69.5	558	3,165
調理実習室	41.0	311	5,045
和室	52.7	427	5,066
子午線ホール	56.3	295	40,014
リハーサルスタジオ	43.6	342	3,735
音楽練習室 1	70.8	621	1,715
音楽練習室 2	41.5	343	1,370
小計	64.4 (2019 63.4)	6,199	138,274
合計	66.5 (目標 68.1) (2019 65.7)	8,212	171,300

(3) 事業収支

①収支状況

(単位：千円)

項目		2023年度	2022年度	2021年度
収入合計(A)		146,144	141,269	125,262
内訳	指定管理料	95,817	95,817	88,817
	利用料収入	47,373	44,219	34,038
	実施事業収入	1,442 (内 指定事業 603、独自事 業839)	1,199 (内 指定事業 461、独自事 業738)	748 (内 指定事業 271、独自事 業477)
	精算返戻金	0	△1,168	0
	その他収入	1,512	1,202	1,659
支出合計(B)		149,184	143,282	126,831
内訳	人件費	60,343	52,309	55,300
	管理費(事務費、物件費、 一般管理費を含む)	80,159	82,238	62,586
	負担金	352	425	265
	実施事業費	1,836 (内 指定事業 1,836、独 自事業0)	1,622 (内 指定事業 1,168、独 自事業454)	1,753 (内 指定事業 1,319、独 自事業434)
	公租公課	6,438	6,622	6,926
	その他支出	56	66	1
収支(A-B)		△3,040	△2,013	△1,569

②市の使用料等の収入状況

なし

3 その他評価の参考となる特記事項

・キャッシュレス決済サービスの導入、貸館利用者が自ら備品設営や印刷を行えるようマニュアルの整備や誰もが扱いやすい備品への入れ替えを行った結果、スタッフの業務が効率化でき、市民への相談・コーディネートの実績が図られた。

・指定管理期間第2期では、「わたしづくり・なかまづくり」から「まちづくり」に発展させるため、「わたしとまちがつながる交流拠点」を新たなコンセプトとし、明石市生涯学習センター及びあかし男女共同参画センター(愛称：ウィズあかし)がまちとつながることが重要と考え、男女共同参画、アートやおすすめスポットなどをテーマに明石のまちを紹介する「あかしウエルカムプレイス」(あかしが見える場所～しるみるあかし～)の実施、幅広い年代層の市民がまちとつながるための「まちの魅力と出会うための地域学講座」や市民のエントリー条件を緩和した「ウィズフェス2023」を行った。

・複合型事業の取り組みとして、誰もが参加できる多様なコミュニティサロンの開設については、「つながりサロン」をリニューアルし、「LikeCafe つむぎ」をスタートした。

・市民参画による運営に関しては、第3期ウィズあかし運営委員会「みんなでつくるウィズあかしを考える会」の構成メンバーに学識者、公募委員に加え、今回からウィズあかし登録メンバーズ、あかねヶ丘学園の生徒、本棚 hito-haco オーナーなどを加えた。そのことにより様々な視点から意見を聞くことができた。さらに出た意見を基に、福祉や文化関係、その他企業の関係者で組織する専門委員会を2回開催した。

・生涯学習活動・地域で活躍する人材の発掘及び育成支援に関する取り組みとして、市民が気軽に得意なことや知ってほしいことを表現できる「チャレンジ屋台」において、講師同士の交流機会の提供やスキルアップ講座（広報）を新たなプログラムとした。また、ウィズあかし登録メンバーズ制度を通じた人材発掘と育成において、メンバーズの交流会「ウィズゆう」でフリースペースを活用したイベント開催経験の情報共有を行い、会員同士でブラッシュアップする機会を提供した。

・いつでも誰でもどこでも閲覧、依頼できる「講師カタログ」Web版として、紙媒体の講師カタログをリニューアルし、コーディネートの実質化を図った。

・つながる本棚 hito-haco の運営及びブックスポットへの支援として、二つに分かれていた貸出システムを統一し、利用者の利便性を向上させた。また、hito-haco オーナーと利用者をつなぐツールとして「ヒトコトメッセージ」を開設した。

・新たに子育て・ユース世代支援強化による全世代への学習機会を提供していくために、子育て世代が関心を持ちそうな「自分のための時間」をテーマに、あかし市民図書館と共催で講座を検討・企画し実施した。

・市民活動支援及び地域、行政との協働の推進に関する取り組みとして、ウィズあかし登録メンバーズだけでなく、ウィズあかしと接触がなかった市内で活動する団体を対象とした助成金の探し方や申請書の書き方を学ぶ「助成金セミナー」の開催、連携事業として「NPO・地域活動の資金調達力を高める！助成申請のコツ」や「広報勉強会」などを実施した。また、誰でも参加可能な「ウィズゆう+」を開催し、ウィズあかし登録メンバーズと市民活動団体との新しい交流やつながりがうまれた。また、登録メンバーズ以外の市民活動団体や活動者へのアプローチを進め、NPO法人設立のサポートにつながった。

・男女共同参画・女性の活躍推進に関する取り組みとして、当事者・家族等に対するエンパワメント、多様なチャレンジを応援するキャリアデザイン・ライフデザイン支援として、市のインクルーシブ推進室と共催で、パパの家事育児応援イベント「パパ応援DAY」、男女共同参画のきっかけづくりとして映画「ビリーブ」の上映、啓発のためのあかし図書館との連携展示、県立男女共同参画センター（イーブン）との共催セミナー『出張！女性のための働き方セミナー「シングルマザーのためのマネープラン」』、「再就職準備セミナー」、「起業のためのSNS講座」などを開催した。また、先駆的テーマの普及などの啓発事業として「国際女性デー」や市さとおや課と連携した「さとおや月間」、男女共同参画課と連携したDV防止の「パープルリボンキャンペーン」などを行った。

・相談の場で気づいたニーズを反映させた「HSP（ハイリー・センシティブ・パーソン）当事者向けのセミナー」、「HSC（人一倍繊細な子）の保護者の語り合いの会」、「職場で役立つコミュニケーション講座」などを開催した。また「HSP当事者の集まり」が自主的に立ち上がった。さらに、本を通じた居場所づくりとなる「本をとおして自分と向き合う時間」を実施した。

・相談業務については、3つの相談（面接、電話、就業）の受付の一本化、「予約電話相談」、ダイレクトに相談員とつながる「ほっとライン」を設け、メニューや相談枠を増やし、利用者の利便性の向上を図った。その結果、電話がつながりやすくなった。また、相談者同士でのエンパワメントを促すために、新たにグループ相談を「ミモザの会」として、テーマを工夫するなど模索しながら企画実施した。また、DVセンター、保健所、子育て支援センターなど関係する機関と連携しながらの相談対応を充実させた。

4 所管課総合評価

・利用者アンケートの顧客満足度において、満足が、38.8%、やや満足が30.8%、普通20.5%となり、良好な結果が得られた。事業達成度では、2022年度と比較すると、稼働率1.1%の増、貸館利用者20,154人の増となっている。事業計画で示した目標値を下回ってはいるが、新型コロナウイルスの影響がなかった2019年度稼働率65.7%を超える66.5%の数値に至った。

・2023年度は第2期の指定管理期間の初年度であり、5年間の様々事業を展開するための「土台づくり」をつくる年度と位置づけ上記3 その他評価の参考となる特記事項にあるように、新たな事業に取り組んだ。

・今年度、スタッフの業務を効率化し、市民への相談・コーディネートの実施を図った結果、利用者のアンケートにおいて、相談・コーディネートの対応については、満足が30.2%、やや満足19.5%、普通23.8%と満足度が高い施設であること示した。

・本年度に企画・準備を進めた下記事業が次年度に向け、計画的に実現されていくことを期待している。

- (1) 明石のひと、もの、ことを主体的に探究する市民が参画できる市民研究所「あかし学研究所」や、まちをより深めるための「マイあかし学学会」
- (2) 市内の「ボランティアしたい」市民活動への関心層と、「ボランティアを募集したい」既に活動している市民活動団体のボランティアマッチング制度である「ボラ×マチAKASHI」
- (3) 男女共同参画をテーマにした自助グループの立ち上げ・運営支援
- (4) ウィズあかしのセンターとしての多様な機能を利用者に知ってもらい活用してもらうための「ウィズあかしを使いこなすための情報紙」の発行

・施設維持管理業務においても適時適切に実施され、効率的・効果的な施設管理に努めている。施設の老朽化に伴う課題もあるが、引き続き市と協議の上、適切な対応を求めていく。

・職員研修、個人情報保護や安全面での対応については、各種の取り組みを行っており、適正に実施されている。

以上のことから、2023年度において、指定管理者による適正な管理運営がなされていると判断する。